



2024年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果								
			(◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)								
			1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	
			現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。	子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。	幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を基礎を有している。	幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。	保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。	幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。	幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。	幼児教育・保育に関する知識や技能を有している。	
教育の基礎的理解に関	教職原論	①求められている教員の役割や職務内容について理解できるようになる。 ②教員としての意欲や熱意、教育観をもつことができる。		◎					○		
	教育原理(教育史及び社会的、制度的又は経営的事項を含む)	①「教育」の営みを原的に理解する。 ②「教育」についての研究や実践を進めていく上で必要な教育諸分野についての基礎知識を習得する。 ③「教育」を歴史的な視点から捉えることができる。	◎							○	○
	教育心理学	①教育心理学の基本用語を理解し、正確に覚えることができる。 ②幼児・児童・生徒の発達や行動を教育心理学的な観点から解釈し、適切な支援と指導ができるようになる。	◎	○							
	特別支援教育	①特別の支援を必要とする幼児への理解と組織的な対応や知識、支援方法について理解することができる。	○	◎					○		
	教育課程論	①教育課程についての意義や編成の方法およびカリキュラム・マネジメントを行う意義について理解することができる。 ②教育課程、指導計画についての理論と実際を学び、カリキュラム・マネジメントについての理解を深めることができる。		◎	○				○		
関及び等な道す育生の学徳る相徒指習、科談指導の総目等導法時合に、及問的	教育の方法・技術	①幼児教育の方法・技術の基本を学ぶことができる。 ②幼児理解を深めながら保育者としての姿勢や態度を身に付けることができる。 ③ICT等の情報機器及び教材の活用についても最新の知識を得ることができる。	◎		○						
	幼児理解の理論・方法	①幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学びおよびその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるようになる。		◎	○						
	教育相談の理論・方法(カウンセリングを含む)	①学校・園における教育相談の意義と課題を理解することができる。 ②受容・傾聴・共感的理解などのカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解することができる。		◎						○	
教育実践に関する	教育実習指導	①教育実習の意義・目的・実習生としての心構え等を学び、幼稚園実習に向けて期待をもつことができる。 ②幼児理解や観察の視点と方法、教材研究等を行い、幼児の具体的なイメージや保育実践力を身に付けることができる。 ③幼稚園参観や研究保育の映像記録の分析、模擬保育によって、幼児の遊びや生活を理解できるようになる。			○	◎			○		
	教育実習	①各幼稚園での教育実習を通じて、発達に応じた幼児期の生活や遊びについて理解し、実習記録や指導案の作成に活かすことができる。 ②幼児への言葉かけ、配慮などを実践を通して学び、人的環境としての保育者の役割について理解することができる。 ③組織の中で周りの人とのコミュニケーションをとったり、行動したりできる。			○			○	◎		
	保育・教職実践演習(幼稚園)	①実習で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割について、自分なりの考えを言葉や文章で表現することができる。 ②使命感や責任感、社会性や対人関係能力など、保育者としての必要な資質について学び、周りの人とコミュニケーションがとれるようになる。 ③目指す保育者像に向けて、自己課題を明確にするとともに、保育者としての意識を高めることができる。			○		◎				○
教職関連科目	教育情報処理演習	①ワードに写真、図形、表などを取り込みビジュアルな文書作成ができる。 ②エクセルによる基本的な計算処理、グラフ作成ができる。 ③エクセルによる基本的なデータベース処理ができる。 ④パワーポイントを用いたプレゼンテーションデータの作成ができる。			○						◎
	学科特別演習Ⅰ(担当:川村 高弘)	①保育者としての遊びや表現活動とは何かを理解することができる。 ②保育者として遊びや表現活動における実践力を身に付けることができる。	○		◎					○	
	学科特別演習Ⅰ(担当:小松原 祥子)	①リズム等保育における音楽遊びを実践し、提案できる。 ②音楽を通して保育実践力を身に付けることができる。 ③イメージを表現することができる。	○		◎					○	
	学科特別演習Ⅰ(担当:島山 由佳子)	①自分が感じたことを的確に言葉で表現することに自信を持つことができる。			○		◎		○		
	学科特別演習Ⅰ(担当:松岡 恵)	①支援者に必要なメンタルヘルスの基礎知識を習得できるようになる。 ②安定した人間関係を築ける支援者になるためにまず自分自身について理解し、メンタルヘルスのマネジメントについて理解を深める。								◎	○
	学科特別演習Ⅱ(担当:大西 真弓)	①演じ方の工夫や表現力を高めること、各自の役割遂行に責任を持つこと、協同する喜びを味わうことから保育者として大事な同僚性を高めることができる。 ②実践を通して幼児理解を深め、子どもへのかかわりや保育の実践力を身に付けることができる。			◎					○	
	学科特別演習Ⅱ(担当:桐原 美恵子)	①様々な素材を使って、マリオネット作りに取り組みすることができる。 ②子どもと共に様々な活動を楽しんだり、周りの人とコミュニケーションをとったりできる。 ③お話づくりや実践を進める中で、主体的に取り組み、保育者としての実践力を身に付けることができる。			◎					○	
	学科特別演習Ⅱ(担当:辻田 美和)	①作品制作などの造型表現活動を通して、表現方法や画材についての研究を深め、子どもの楽しく豊か造型表現活動を支援するための実践力を向上させることができる。			◎					○	
	学科特別演習Ⅱ(担当:矢野 真理)	①子どもの心身の健康問題について理解を深め、子どもの健康を支援する力を身に付けることができる。 ②運動遊びを通して保育における具体的な援助の方法を身に付けることができる。				◎	○				
	保育者のキャリア形成論	①社会に参画するとはどういうことなのかを把握し、子どもや保護者、同僚とより良い人間関係を築いていかなければならない保育者としてのキャリアデザインを描くことができる。			◎				○		
音楽A	①ピアノ演奏の基礎力を身に付け、弾き歌いと保育現場に適した楽曲が演奏できるようになる。 ②無理のない自然な発声法で正しく表情豊かに音楽表現することができる。 ③保育者に必要となる音楽の基礎知識とリズム表現の基礎を習得する。	◎		○							

2024年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果							
			(◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)							
			1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
			現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。	子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。	幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力、基礎を有している。	幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。	保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。	幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。	幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。	幼児教育・保育に関わり、生涯にわたる学び続ける姿勢を有している。
教職関連科目	音楽B	①ピアノ演奏の基礎と応用力を身に付け、弾き歌いと保育現場に適した楽曲が演奏できるようになる。 ②コルユープンゲンでリズムや音程の基礎を身に付け、ソルフェージュによって基礎的な調を理解し、発展的な歌唱表現を身に付ける。 ③現場でピアノやリズム楽器を用いて表現するための音楽理論を理解する。	◎		○					
	音楽C	①保育現場での音楽活動のためにピアノの基礎を身に付け、コード伴奏を含めた応用演奏ができるようになる。 ②自分の思いを音で表現できるようになる。 ③弾き歌いのレパートリーを増やし、楽曲の本質を見抜いた表現ができるようになる。	○		◎					
保育に関する専門科目	保育原理	①保育の意義や目的について理解することができる。 ②保育に関する法令や制度について理解することができる。 ③保育所保育指針における保育の基本について理解することができる。 ④保育の思想と歴史の変遷について理解することができる。 ⑤保育の現状と課題について理解することができる。	◎					○		
	子ども家庭福祉	子どもとその家族に対する専門職に必要な価値・技術・知識をもつことができる。			◎	○	○			
	社会福祉	①固定観念ではなく、独自の理解のなかで社会福祉の考え方やそのイメージをもつことができる。 ②社会福祉に関わる諸問題、制度、法律などの概要を知ることができる。			◎	○	○			
	子ども家庭支援論	①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できるようになる。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できるようになる。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解できるようになる。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できるようになる。			◎	○	○		○	
	社会的養護 I	授業終了後、「子どもの最善の利益」のための社会的養護とは何かを、個人で考えることができる。			○	○	◎	○		
	社会的養護 II	①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。 ②施設養護及び家庭養護の実践について理解できる。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解できる。 ④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。 ⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。			○		◎	○		
	保育者論	①保育者の役割と倫理について理解することができる。 ②保育者の制度的な位置付けを理解することができる。 ③保育者の専門性について考察し、理解することができる。 ④保育者の連携・協働について理解することができる。 ⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解することができる。	○						◎	
	子ども家庭支援の心理学	①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期段階の重要性、発達課題等について理解できるようになる。 ②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得できるようになる。 ③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できるようになる。 ④子どもの精神保健とその課題について理解できるようになる。	◎		○					
	子どもの理解と援助	①保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解できるようになる。 ②子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できるようになる。 ③子どもを理解するための具体的な方法を理解できるようになる。 ④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解できるようになる。			◎	○				
	子どもの保健	①子どもの保育にたずさわるために必要な基礎的事項(身体発育や発達、子どもの健康状態の把握、疾病に対する理解と対応等)を理解することができる。 ②子どもの健康の保持・増進を図るために、具体的に何をすればいいのかを考えることができる。 ③これらの知識を保育実習で実践できるようになる。			◎					○
	子どもの食と栄養 I	①子どもの食と栄養の特性とその重要性を理解することができる。 ②子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活がイメージできるようになる。	◎	○	○					
	子どもの食と栄養 II	①食育の必要性を理解し、その取り組みについての考えを持つことができる。 ②家庭や児童福祉施設での食事、特別な配慮を要する子どもの食事について、保育者として食と栄養に関する指導の実践がイメージできるようになる。			○	◎	○			
保育内容総論	①保育所保育指針や幼稚園教育要領等における「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解することができる。 ②保育所保育指針や幼稚園教育要領等の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解することができる。 ③子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解することができる。	○		◎						

